

令和8年度 大学院人間社会科学研究科  
経済学・経営学専攻

経済学プログラム(経済社会政策コース) 入学者選抜試験問題

専門科目試験 出題意図

(観光論)

まず、表のデータの運用状況から、受験生が観光統計の基礎的な分析能力を持っているのかを確認する意図があります。この表からは出身地によって旅行支出の傾向が異なっていることが分かります。たとえば、中国からの訪問者は買い物、イタリアからの訪問者は飲食費、英国からの訪問者は宿泊費など、支出金額に特徴があることが分かります。

異なった傾向の訪問者全てにプロモーションを行うことができれば良いのですが、現実問題として予算の制限があります。そのため、ターゲットの絞り込みが必要になります。たとえば中国人観光客を想定した買い物をいかにプロモートするかが重要になります。あるいはイタリア人をターゲットとした食文化プロモーションでも良いでしょう。

なお、表から直接分かるのはここまでですが、受験生の観光に関する知識もまたこの問題で計る意図があります。たとえば、韓国や台湾などの近場からの訪問者の場合、人数は多いですが、滞在日数が短く、旅行支出が少なくなる傾向があると一般的に言われています。逆に欧米豪など遠方からの訪問者の人数はそれほど多くないですが、滞在日数が長く、旅行支出が多くなる傾向があると一般的に言われます。表のデータの分析に、観光に関する知識を組み合わせると加算点となり、より高得点になります。